中世西日本海水運と山陰地域の流通構造に関する研究

2015～2017年度科学研究費補助金　基盤研究（C）
研究成果報告書

（課題番号　15K02832）

２０１８年（平成３０年）３月

研究代表者　長谷川　博史
（島根大学教育学部教授）

目　次

はじめに ---------- 1

15・16世紀山陰地域の政治と流通 ---------- 4

1．はじめに
2．海域の地勢的特質
3．政治勢力の趨勢
4．海域の変容と京都
5．おわりに
～物流の担い手と領主層の関係、富田川河床遺跡の位置づけ、史料の問題～

16世紀における杵築門前町の発展 ---------- 17

1．はじめに
2．杵築門前町の位置と景観構成
3．杵築法度から何がみえるか
4．石見産銀の輸出と地域社会の変貌
5．杵築門前町の「発展」
6．おわりに

富田城下町の復元的考察 ---------- 29

1．はじめに
2．「富田町帳村」の成立　～文献史料から17世紀の富田町を探る～
3．富田城下町から松江城下町へ
4．中世富田城下町と富田城の地域的・歴史的位置
5．おわりに　～西日本海沿岸地域全体からみた中世富田城下町～

附表 ---------- 54

⑧ 寛文8年　富田町引料米帳
⑨ 寛文8年　広瀬町屋敷町
⑫ 元禄2年　広瀬町屋敷検地帳

はじめに

1．研究の背景

本研究が検討対象とする西日本海とは、若狭と対馬によって区分される空間領域を指している（井上寛司「中世西日本海地域の水運と交流」〈『海と列島文化 2　日本海と出雲世界』1991 年〉）。

西日本海は、日本列島中央部の経済的・社会的・政治的構造の特徴や変化に、強い影響をおよぼしていた側面がある。なぜならば、京を含む西日本各地と大陸を結ぶ経路として、位置関係や海流、対馬・見島・隠岐島など島嶼の存在など、すぐれた地理的条件を有していながら、天候や船舶技術発達過程における規制を受け、また陸路が優越する律令国家の交通体系にも強い影響を受け、制度的な条件や、広域経済からの影響を、独特な形で反映してきた歴史的経緯があるからである。西日本海とは、たとえば平安期日宋貿易の構造的特質（渡邊誠『平安時代貿易管理制度の研究』2012 年）や、中世後期の大陸との通交関係（関周一『中世日朝海域史の研究』2002 年）、16 世紀の産銀輸出などが、日本列島の経済・社会に与えた影響について検討するためにも、重要な鍵を握る海域であったと考えられる。

中世西日本海水運に関しては、井上寛司氏の研究（「中世山陰における水運と都市の発達」〈有光友学編『戦国期権力と地域社会』1986 年〉、および前掲井上氏論文）によってすでに基本的な事象や特徴が示されており、荘園公領制の年貢輸送ルートを起点に廻船ルートが形成されていく過程が解明された。美保関や隠岐島を結節点として、広域的な複数の「ルート」が存在したことが指摘された。それをふまえた研究代表者の研究 (1) では、中世後期において、より日常的で広域的なネットワーク状の交流・物流が深められていったことを明らかにした。15 世紀には、西日本海西部海域を中心として、通交関係・商業取引・海賊行為を示す史料が増え、日常的な交流が広域化したこと、宍道湖・中海の港湾都市（白潟・末次・平田・安来・米子）が形成され、16 世紀には西日本海沿岸の港湾都市群が全盛の時代を迎えたことなどを、絵図史料、地形、地名、棟札や金石文、石造物を用いて検討してきた。

しかし、内陸部を含めた流通構造や、それらと日本海水運との連関構造については、課題として残されていた。なかでも、中国山地に特徴的な鉄や、石見銀山に代表される銀、都茂丸山鉱山をはじめとする銅など、金属を中心とする地域資源の存在が、全体の構造や変化に大きな影響をおよぼした点は看過できない (2)。中世金属資源の流通に関しては、考古学分野を中心とする著しい研究の進展により、ますますその重要性が注目されているところである（竹田和夫編『歴史のなかの金・銀・銅』2013 年、小野正敏他編『金属の中世』2014 年）。とりわけ山陰地域の金属資源が生み出した人や物の流れは、日本海水運の展開と密接に関わり合いながら、地域社会全体に大きな影響を与えた可能性が高い。その点を、明らかにする必要があると考えられる。

また、近年の発掘調査の成果によって、西日本海水運自体のとらえ方にも見直しが必要となってきた。中世前期において、沖手遺跡の厖大な舶来陶磁器の意味は、年貢輸送ルートの形成のみでは説明できない。また、中須東原遺跡・今市遺跡などを擁する古益田湖（石

見潟）の港が、明の日本研究書に表れない理由も定かではない。

本研究は、以上のような課題を解明するために、中世山陰地域の流通構造とその展開について、金属資源の生産・流通とその変化に着目する観点から、西日本海水運との連関構造を追究し、明らかにすることを目的とした。

2．問題の所在

本研究は、鉄（中国山地、特に出雲国南部を中心的検討対象とする）、銅（都茂丸山鉱山を中心的検討対象とする）、銀（石見銀山を中心的な検討対象とする）の３種の金属資源を手がかりとして、内陸部を含めた流通が、西日本海水運とどのように関連していたのかを明らかにし、海域を含む中世山陰地域の流通構造の特徴と変化について、その全体像をとらえなおそうとしたものである。そのため、産出地域の政治的・経済的特徴や、流通経路における主要な結節点について、具体的な実像を明らかにすることが第一の課題となった。

まず、[1] 産出地域・流通経路に関する資料の収集、[2] 産出地域・流通経路に関する考古学情報の収集を行い、[3] 物流拠点の復元的考察を試みた。鉄については、原料供給・商品形態・用途がきわめて多様であるため、検討対象の範囲が広くならざるをえないが、ひとまず産出地域の事例として出雲国南部・伯耆国日野郡、物流拠点の事例として、富田・米子・安来・白潟・杵築について検討した。銅については、石見国美濃郡を事例に、都茂丸山鉱山と益田川流域、古益田湖周辺の港について検討した。銀に関しては、石見銀山と温泉津・浜田について検討した。特に、個々の物流拠点のうち、これまでの研究(3)で十分に解明できていないもの（富田や杵築など）については、地名・地名・絵図・文献史料に基づいて物流拠点の景観と構造を復元する作業を行った。その過程においては、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会、安来市教育委員会、益田市教育委員会などとの情報交換の機会を設け、発掘調査の結果など最新の成果をふまえて検討した。

以上のような、産出地域と流通経路に関する検討をふまえ、[4] 金属資源の流通構造と西日本海水運の連関構造の解明をめざした。

3．結果と意義

中世日本海海域の実態を明らかにしていくことは、日本列島全体の歴史的諸段階をより正確に理解するために、欠かすことのできない問題であると思われる。特に、朝鮮半島に近接する西日本海地域の物流の実態に、未だ不鮮明な部分が多いという現状は、研究史上の空白として早急に克服すべき課題ではないかと思われる。

ただし、関連する文献史料は限られているので、金石文・棟札・石造物・地名・発掘資料など最新かつ多様な歴史資料情報を収集・活用するとともに、産出地や流通形態をある程度推定できる金属資源に着目する視点を手がかりとし、考古学や対外関係史・海域アジア史をはじめとする研究成果を十分にふまえながら、多様な資料を用いて多角的な観点から検討する必要がある。

このうち金石文・棟札や石造物について、研究代表者は、中世山陰地域における棟札銘文などの情報収集を進めてきており、また、御影石・日引石など現在すでに注目されている資料情報を、活用した。また、中世における流通の結節点の実態解明について、研究代

表者は西日本の港町に関する検討を進めてきた(4)。本研究では、これまで未解明な事例を中心的に取り扱うことにより、より全体的な流通構造の解明を試みた。

特に、金属資源の流通と水運との関連性に着目し、異なる性格の資料を総合的に検討することによって、西日本海水運と山陰地域の流通構造を検討したことは、管理貿易と民間貿易の関係が実態的に明らかにされつつある中世初期の日宋間貿易のさらなる探究や、中世後期の大陸との通交関係や 16 世紀の産銀輸出などが日本列島の経済・社会に与えた影響についても、さらに具体的な検討が可能となるものと思われる。

本報告書では、中世当該地域の全体像を俯瞰した「15･16 世紀山陰地域の政治と流通」、杵築門前町に関する最新の論考「16 世紀における杵築門前町の発展」を掲載し、あわせて「富田城下町の復元的考察」と題して、中世富田城下町に関する作業の概要を報告する。いずれも中世の政治権力や内陸部と西日本海流通との関係を追究したものである。石見国内の具体的な流通構造など、なお検討すべき課題は多いが、16 世紀の半ばから後半、さらには 17 世紀にかけて、流通構造・社会構造・政治構造が大きく変化していく様相を、物流拠点の形成・展開・変容との関連においてとらえることの重要性は、確認できたものと考えている。

註

（1）　『松江市ふるさと文庫 15　中世水運と松江』（松江市教育委員会、2013 年）、「十六世紀における西日本海域の構造転換」（矢田俊文・工藤清泰編『日本海域歴史大系　中世篇』清文堂、2005 年）。

（2）　「戦国期の地域権力と石見銀山」（『世界遺産石見銀山遺跡の調査研究』4 号、2014 年）、「毛利氏支配下における石見銀山の居住者たち」（池享・遠藤ゆり子編『産金村落と奥州の地域社会―近世前期の仙台藩を中心に―』岩田書院、2012 年）、「十六世紀における西日本海域の構造転換」（矢田俊文・工藤清泰編『日本海域歴史大系　中世篇』清文堂、2005 年）、『戦国大名尼子氏の研究』（吉川弘文館、2000 年）。

（3）　「毛利氏支配下における石見銀山の居住者たち」（池享・遠藤ゆり子編『産金村落と奥州の地域社会―近世前期の仙台藩を中心に―』岩田書院、2012 年）、「中世港町安来の復元的考察」（『社会科研究』31 号、2010 年）、「寛永二年杵築検地帳と杵築の歴史」（『大社の史話』164 号、2010 年）。

（4）　『松江市ふるさと文庫 15　中世水運と松江』（松江市教育委員会、2013 年）、「港町の歴史的環境と伝説」（橋本政良編『環境歴史学の風景』岩田書院、2010 年）、「中世港町安来の復元的考察」（『社会科研究』31 号、2010 年）、「寛永二年杵築検地帳と杵築の歴史」（『大社の史話』164 号、2010 年）、「都市の歴史：尾道の町の形成過程」（『尾道の町並み　尾道市歴史的建造物及び町並み調査［第一部］歴史的価値と現状』尾道市、2009 年）。

2015～2017年度科学研究費補助金　基盤研究(C)
中世西日本海水運と山陰地域の流通構造に関する研究
研究成果報告書

2018年（平成30年）3月

発行者：長谷川博史
〒690-0826 松江市西川津町1060
島根大学教育学部